

共同利用・ 共同研究拠点名	パネル調査共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	慶應義塾大学（パネルデータ設計・解析センター）
評価区分 (中間評価結果)	A
評価コメント	本拠点は、社会科学における主体行動等の理論仮説に基づき、同一個人や同一家計、企業の行動、経済状況の変化を長期にわたって追跡調査した国際比較可能なパネルデータを設計構築し、これを用いた実証分析を行うこと、データの整理・管理、および、国内外の研究者に広くデータを公開し、シンポジウムやセミナーなどの開催を通じてパネルデータによる研究成果の報告やパネルデータの有用性、活用方法を伝播することを目的として拠点活動を実施している。共同利用・共同研究拠点としての活動は概ね順調に行われており、関連コミュニティへの貢献も見られるところである。 特に、個人・家計・企業の行動やその環境に係るパネルデータを長期にわたり安定的に収集し、これを広く共同利用に供するために公開しているとともに、国内外における共同研究のための体制構築研究の推進や成果の発信等、いずれの観点においても着実な進展が見られる。 今後は、構築したデータベースを研究成果の創出につなげるために、異分野への展開など拠点活動の幅を拡大し、関連研究の一層の発展に貢献していくことが期待される。